

のしまめぐりの歌

- 一 周防野島はまわりが三里 うらはひとつら ひとえへす
- 二 野島人家は二百とあまり 寺がいつか 寺宮いつしや
- 三 周防なだなる 野島の人は もとをただせば平家すじよ
- 四 沖浦山おきつらから 周防灘すおうなだみれば じょうきぐんかん ほまいせん
- 五 いつも青く こうじんもりは ふうちおやまに 茜島
- 六 野島むかしは つつじの花で 島は全体 あかねじま
- 七 それで野島を茜の島と 昔古人のいつたえよ
- 八 昔しのべば 平家の血筋 源氏風俗 つつしもつ
- 九 野島あましの によくも似ている大仏に
- 一〇 のしま山から 周防灘見れば 牛の泳ぐに にたおもて
- 一一 沖浦山から 眺めてわたしや ごはんおちたや ぬりびつに
- 一二 沖浦いそなる あぬ塗りびつに 誰が布団をいらるやら
- 一三 あましばなる けんそな岩は 犬も恐れた 犬もど瀬
- 一四 ばけんどう石なせばけがてる あればあかうそ 赤岩よ
- 一五 おうくぼ磯にて むこうの岩に ちよとひとびと びわたり
- 一六 おおくぼ岩間のおろろんくぼは おろろおろろんと 鳴り響く
- 一七 これはりゆうぐうの 姫様が 楽器かなでる おんがくよ
- 一八 むかしてんにん あきくだらして お茶をたてたか ちやうす山
- 一九 おおくぼ山から 豊後を見れば くもにそびえし ぢごく山
- 二〇 野島名物 おどりと太鼓 つぐみ基石と いその岩
- 二一 田の浦はまには 乙姫様が もちの支度か うす石は
- 二二 野島とぐらの 大ぼこ小ぼこ ながめうるわし みようと岩
- 二三 昔しのべば させてかわいそう きちがくぼやら はつがくぼ
- 二四 してもおそろし 石灰だけのおおぐちはつたる ふたわれは
- 二五 野島せとわきうかべる石は うまの泳ぐに にたうませ
- 二六 かいちゆうに いたやもて かいりたや 沖の島なる ぜに石を

- 二七 りゆうぐの 姫さが ひら島やまで ごはんたいたか 火床山で
- 二八 おきの島なる ひめがぎざ石 りゆうぐ姫さの かけはしか
- 二九 島でよいのは 景色に 空気なつ 海水浴 にほんいち
- 三〇 雪の野島に 雨ふる野島 花やみどりも よい野島
- 三一 野島よいよこ 四方が海で 四季のながめの つきぬしま
- 三二 安芸の宮島さまにも たる野島お宮の石とりい
- 三三 一度来てみよ 野島の津久美浜の 小石は るりごはん
- 三四 野島津久美は ふたみがうらに まさる景色よ きてごらん
- 三五 えんどう島じゃといわれた野島 いまじゃ日本の一のしま
- 三六 地図にも見えない 小さい野島 いまは日本に 知れ渡る
- 三七 のしまひらじま あ沖の島 三つをあわせて あかねじま
- 三八 春は花見に 夏海水浴に 秋の月見も よいのしま
- 三九 おきのうらから こうじんみれば こうちうるわし もりのまつ
- 四〇 あまし波止より おみやをみれば 安芸の宮島さまのよき
- 四一 なつのさえたる 月夜のばんは ことに涼しき はどのつへ
- 四二 月に浮かれて しんばとさして ゆけばあせひく 夏しらす
- 四三 月にすずみの船うかばせて うねりうねりの きしのなみ
- 四四 しまと船とは なまにくろし 空にいよいよ 月白く
- 四五 すきな節にて このうたうたえ くさつくしもと やすきぶし
- 四六 うたうてみしやんせの 島の唄を うたやこころが いさみたつ
- 四七 おかしけれど うたうてみやれ おかしいところにあじがある
- 四八 わらへわらへ しっかりわらへ 笑う門には 福が来る
- 四九 一度おいでよ 野島の名所は まのごいしに 花がさく
- 五〇 野島おどりは ながかいおどり みても 値打ちのあるおどり
- 五一 のしま人として けいぶつする なきみのせきしの 一ぶにん
- 五二 島じゃ島じゃと けいぶつするな 島もみくにの こりよつない
- 五三 ばかにしやすんな 野島じゃとても 君にささぐるみは ひとつ